

令和2年度

自己点検・自己評価結果報告書

令和3年2月25日

東京女子医科大学看護専門学校

# 目 次

- I 学校の現状
- II 重点目標
- III 自己点検・自己評価表
- IV 評価項目別分析及び課題

## I 学校の現状

### 1. 学校の名称

東京女子医科大学看護専門学校

### 2. 学校の所在地

東京都荒川区西尾久 2-2-1

### 3. 沿革

ホームページ参照 (<http://www.twmu.ac.jp/U/VC/about/history.html>)

### 4. 学科

看護学科

### 5. 学生数

260名 (令和2年5月1日現在)

### 6. 教職員数

15名

### 7. 事務職員

3名

### 8. 施設配置図

ホームページ参照 (<http://www.twmu.ac.jp/U/VC/about/facilities.html>)

### 9. 組織図

ホームページ参照 (<http://www.twmu.ac.jp/U/VC/about/about/organization.html>)

重点目標1：3つのポリシーに基づいた自校教育の強化

看護専門学校では、建学の精神と教育理念に基づき、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを医学部、看護学部と平仄をあわせ見直した。後者2つのポリシーを、入学後の学生に浸透させ、社会に貢献する女性医療人を、本校から毎年輩出する。

行動計画	中間報告	成果・課題
<p>1. 建学の精神、教育理念と2つのポリシーとの関連を、ホームルームを通してくりかえし示し、理解を促す</p> <p>2. 1年生は吉岡弥生伝を教科書とし、創立者や「至誠と愛」について深め、読後の感想文を書く</p> <p>3. 2,3年生は、実習を通して体験した看護実践が「至誠と愛」につながっていることを常に振り返り、レポートにまとめる</p>	<p>建学の精神、教育理念と2つのポリシーとの関連を、1年生は入学時のガイダンス、2,3年生はホームルームで説明し理解を促した。後期において、吉岡弥生伝を読み実習の体験を振り返ることを行い達成状況を評価する。</p> <p>本学3医療施設（内部就職）受験率は91%であった。</p>	<p>1年生は全員、吉岡弥生伝を読み創立者の生き方や考えを知ることができた。2,3年生は、年間の実習終了後、自分の看護実践が「至誠と愛」の理念を基盤に出来ていたかを振り返り、看護実践者としての意欲が高まっていた。内部就職率は79%であった。</p>

重点目標2：学生への患者安全教育の基礎にヒューマンファクターの考えを取り入れる

現カリキュラムに医療安全教育の根幹を成す「ヒューマンファクターの重要性」への理解が不足していることが分かった。加藤多津子准教授より、まず、全教員へ、今後のカリキュラムの構築のため、「ヒューマンファクターの重要性」を含めた医療安全教育について、講義をしていただいた。

行動計画	中間報告	成果・課題
<p>1.1 年生のカリキュラムに「ヒューマンファクターの重要性」を入れた医療安全教育をおこなう。</p> <p>2. 教員の医療安全への意識を高める。</p> <p>3. 学内の医療安全啓発センターでの研修（全教員、全学生）</p>	<p>医療安全教育を系統立てて学べるように3学年のカリキュラムを構築した。「ヒューマンファクターの重要性」は東医療センター医療安全対策室師長から講義を受けた。2月にWHOカリキュラムガイドに基づく医療安全教育のアンケートを教員に実施し教員による本テーマの教育程度を評価する。</p>	<p>3学年とも実習前に医療安全教育を行い実習での看護実践時インシデント、アクシデントをおこさないためにどのようにしたらよいか考えられるようになった。教員への医療安全教育意識を確認するアンケートで「ヒューマンファクターの重要性」の評点が昨年より向上した。医療安全啓発センターの研修は、コロナ禍のため行われなかった。</p>

重点目標3：新カリキュラムに沿った在宅看護論実習方法の見直し

令和4年度に実施される新カリキュラム改定において強化される在宅看護論実習の実習目的・目標を見直し、移転先の足立区の実習施設の開拓を行った。実習施設数が増えたため、学生への指導が不十分にならないよう、全教員が担当することになっている。

行動計画	中間報告	成果・課題
1. 新在宅実習施設での研修がスムーズに行えるよう調整する 2. 実習期間中、情報交換、問題解決のPDCA サイクルを通し教員と情報共有を満つにし、実習目標を達成する	実習施設を訪問看護ステーションに加え地域包括支援センター、患者サポートセンターに広げ内容を深めた。新型コロナウイルスの関連で施設に実習に行けなかった学生も数名いたが、実習施設と情報交換しZoomを活用した実習を行って目標達成に向かっている。	新しい在宅施設実習での実習は、コロナ禍で日数を制限したところもあったが、指定された実習時間は達成できた。全教員が手分けし各施設のカンファレンスに参加して意見交換を行い実習目標は達成された。

重点目標4：職業実践専門課程認定の更新

看護専門学校評価に基づいた自己点検・自己評価表を作成し、外部委員に評価してもらうことを実施している。情報システム化などによる業務の効率化、教員の能力開発の研修実施、研究活動の保障の評点が低い項目に取り組み、改善につなげている。

行動計画	中間報告	成果・課題
令和3年7月頃に自己点検・自己評価表の過去3年間の推移を作成し申請する。	職業実践専門課程認定のため、自己点検、自己評価表の改善項目に取り組んでいる。教員の能力開発の研修や研究活動は、新型コロナウイルス感染対策上の授業、実習体制の再構築が優先され進捗が遅れている。	外部委員による教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を各2回ずつ実施し、外部委員からの評価を得た。コロナ禍での遠隔授業、実習体制の再構築を優先することや集合しての研修が中止になったため予定していた改善が進まなかった。更新は令和3年のため今後も進めていく。

重点目標5：授業の教員間評価体制（ピアレビュー）の構築

教員ラダー評価や個人目標面接による教員評価の体制は整備し、実施している。さらなる教員の質の向上を図るためには、他者評価を取り入れて、教員相互に、良い点を取り入れていくことを進め、教員の質の向上（授業の内容の向上、学生指導の向上）をめざす。

行動計画	中間報告	成果・課題
教員1名が、教員3名による授業の内容、学生との意思疎通、理解度の確認などのピアレビュー項目を設定し、評価体制を構築する。	12月に全教員の授業に対して各3名の教員が他者評価するピアレビューを行うことにしている。現在はピアレビューのための評価項目を資料を参考に検討している。	12月に入り感染拡大にて対面授業が難しくなり、作成した評価項目を使ってピアレビューできた教員は、10名中2名にとどまった。今後、対面授業が行えるようになった時期に再開する。

重点目標 6：医学部、看護学部、看護部スタッフへの授業依頼

丸学長の計らいにより、令和 2 年から大学の講師が生理学、公衆衛生学の講義を担当することになった。学外の非常勤講師に依存している講義を洗い出し、同じ建学の精神と教育理念を持つ学内講師にお願いする。

行動計画	中間報告	成果・課題
<p>1. 1 年生の生理学（60 時間）、公衆衛生学（10 時間）の講義は、令和 2 年度から大学講師が行う。</p> <p>2. 基礎分野(英語、人間関係論)は学内講師に、成人看護学(がん看護)は学内と、認定看護師に調整する。</p>	<p>令和 2 年度から本学の学内講師による生理学、公衆衛生学は予定通り授業が進んでいる。</p> <p>令和 3 年度からの英語講師は学内に変更が決定した。人間関係論の講師は依頼中である。成人看護学（がん看護）については、目的にあう講師を人選中である。</p>	<p>令和 3 年度、看護学部協働予定の人間関係論の講師が決定した。看護部と協働予定の成人看護学、小児看護学の講師に認定看護師、専門看護師の協力が得られ、目標は達成した。</p>

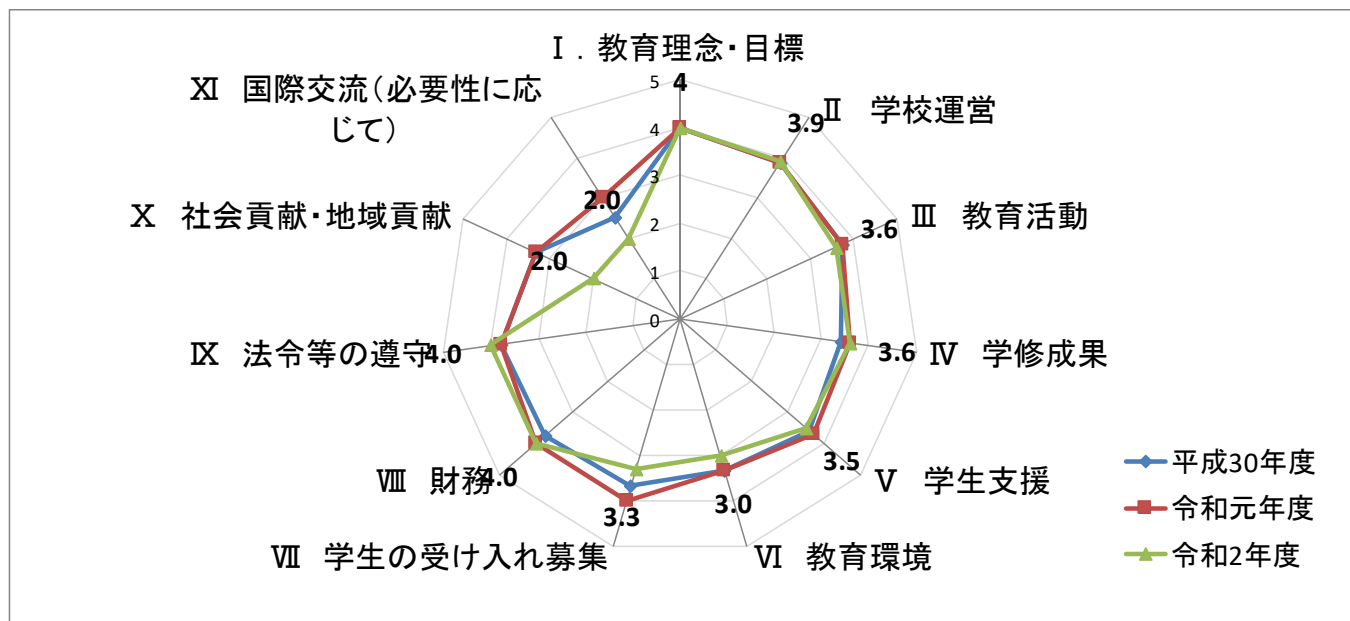
重点目標 7：入学者選抜方式の改正と改善とその評価

入学生の質の向上のために、面接試験を個人面接から集団面接に変更、面接官も専任教員以外に看護部長に依頼し、合否判定基準も書類審査・筆記・面接の合計点での選考から各項目で顕著な不可がある者は不合格と、入学者選抜方式を変更した。この方法が、本校のディプロマ・ポリシーにより合致するかどうか、評価する必要がある。

行動計画	中間報告	成果・課題
<p>1. 学業成績の比較、追試の人数の比較、留年の人数の比較など、模試による学外の学生との成績の比較。</p> <p>2. 学生規則に反する学生の数の比較。</p> <p>3. その間に、集団面接のやり方（評価の仕方を含め）をブラッシュアップ、書類審査のブラッシュアップを行う</p>	<p>面接試験を個別面接からグループ面接に変更した。面接官に本学 3 施設の看護部長を入れて、臨床目線での評価も取り組むことにした。面接試験は従来の評価項目の総合計点評価から、各項目ごとの評価審議と変更した。</p> <p>新しく 3 つの高校を推薦入試の指定校とした。</p>	<p>グループ面接を導入した結果、個別面接では分からなかった共同作業での役割の理解、論点の整理力などを評価することが出来た。また、面接官に看護部長を入れたことで将来の看護師としての協調性や自主性など評価することが出来た。</p>

# 令和2年度「自己点検・自己評価」評価表

2021年2月25日



(4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切)

## I. 教育理念・目標

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4	4	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4	4	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	4	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4	4
平均評価	4	4	4

## II 学校運営

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	4	4

5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4	3
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4	4	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3	3
平均評価	3.9	3.9	3.9

### Ⅲ 教育活動

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	4
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	4	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3	3
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	3
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4	3
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	3	3



15. 教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）しているか	3	3	2
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	3	3	3
平均評価	3.8	3.8	3.6

#### IV 学修成果

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 就職率の向上が図られているか	4	4	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4	4	4
3. 退学率の低減が図られているか	3	4	4
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3	3	3
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3	3
平均評価	3.4	3.6	3.6

#### V 学生支援

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4	3
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	3	3
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4	4	4
7. 保護者と適切に連携しているか	3	4	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	3	3	3
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	3	3

10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	4	3
平均評価	3.6	3.7	3.5

## VI 教育環境

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3	3
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	3	3
3. 防災に対する体制は整備されているか	4	4	3
平均評価	3.3	3.3	3.0

## VII 学生の受け入れ募集

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	4	3
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	4	3
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4	4	4
平均評価	3.7	4.0	3.3

## VIII 財務

評価項目	H30	令和1年	令和2年
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4	4	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	4	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4	4	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	4
平均評価	3.8	4.0	4.0

## IX 法令等の遵守

評 価 項 目	H30	令和1年	令和2年
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4	4	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	3	3	4
平均評価	3.8	3.8	4.0

## X 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	H30	令和1年	令和2年
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4	2
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	3	2
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	3	2
平均評価	3.3	3.3	2.0

## XI 国際交流（必要性に応じて）

評 価 項 目	H30	令和1年	令和2年
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	3	2
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	2	3	2
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2	3	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3	3	2
平均評価	2.5	3.0	2.0

## 令和2年度 自己点検・自己評価表評価項目別結果及び課題

	評価項目	結果及び課題
I	教育理念・目標 ＜評点 4.0＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年策定したアドミッション・ポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマ・ポリシーを学生便覧に提示し、看護専門学校の教育理念、目標について入学生や在校生にガイダンス、ホームルームで周知した。</li> <li>・自校教育として1年は「吉岡弥生伝」を読み、創業者や理念について深く考える機会を持った。さらに2、3年生は実習時に理念に基づいた看護実践が体験できるように事前学習を行い、浸透させていく。</li> </ul>
II	学校運営 ＜評点 3.9＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に対し、感染防止対策を学生、職員に指導するとともに学校内に消毒物品を配置した。政府の方針、大学の指示に沿って学生の登校を制限し、遠隔授業を取り入れた。</li> <li>・2回目の緊急事態宣言で、予定していた病棟実習は中止し、厚労省の指導に沿って代替の演習などを行っている。</li> <li>・長期休み明けなどPCR検査を定期的に3回行い、いずれも学生全員陰性であった。実習中に1名がPCR陽性になったが、早期に対処できたため、クラスターにはならなかった。以上から、新型コロナ感染症対策はおおむね行えた。</li> <li>・週に1回、校長決裁日に教務、財務などの意思決定を行い、決定事項は主事から教員へ明確に伝達し、ガバナンスを保っている。今後も継続していく。</li> <li>・各学年の担任は3名配置した。担任間で情報共有し協力して学生指導に当たることができ効果的であった。必要時、主事に速やかに報告され問題解決している。今後も複数担任は継続していく。</li> <li>・課題であった成績管理を教員が行えるよう3月から入力実施予定である。また、8月ごろ成績管理システムが整えられることになった。次年度は、スムーズに行える予定である。</li> </ul>
III	教育活動 ＜評点 3.6＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業を円滑に行うため学生にWiFi環境を整えさせ、現在問題なく行えている。</li> <li>・新型コロナ感染対策について、学生に正しい予防行動を指導し行動できている。</li> <li>・自宅学修が続く時は、メールや電話で連絡、Zoomなどを使って面接を行い、メンタルケアにも心がけ、大きな問題はなかった。</li> <li>・2022年から開始の新カリキュラム改定に向けて、全教員で29回の検討を重ね、4月に東京都に申請できるよう書類を作成している。</li> <li>・昨年までの授業・実習アンケートが教育活動に活かせるものになっていなかったため、代わりに意見箱を設置いつでも意見を伝達できるようにした。寄せられた意見に対してタイムリーに対応できたので、今後も継続していく。</li> <li>・専任教員の能力開発ラダーを全教員が行い、自己課題に取り組むことを継続した。</li> <li>・職員の能力開発のための研修は、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で企画できなかった。</li> <li>・東京都私立大学看護専門学校とZoom会議で基礎の教員が演習について情報交換を行い、今後に生かしていくことができた。今後も定期的に行う。</li> </ul>

IV	学修成果 ＜評点 3.6＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策として模擬試験を定期的に行いながら、成績の向上がみられない学生に対しグループや個別で学習指導を行った。コロナ禍で登校が難しいため、補習などを行うことは計画通りに行かなかった。</li> <li>・学生には定期的また必要時に面接を行い、成績低迷者やメンタル不調者への関わりを強化しており、退学につながらないようにサポートできている。</li> <li>・卒業生の社会的な活躍は十分把握できていないため、同窓会と協力して把握していくことは今後も継続したい。</li> </ul>
V	学生支援 ＜評点 3.5＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生への学生支援は学年担任を中心に行っている。卒業生への支援は、就職して3か月後にお互いに悩みを話せるような会として「ホームカミングデイ」を行っている。今年はコロナ禍ということもあり、Zoomで行ったが参加者は少なかった。</li> <li>・保護者会は各学年1回ずつ行う予定であったが、集合することが難しいため、保護者あてに学生の現状や今後の予定を文書で送付した。個人の成績表も同封し、成績低迷者や遅刻欠席などが目立つ場合は、連絡をとり保護者に学生の現状を理解いただきサポートを依頼した。</li> <li>・学生数の3割程度いる社会人学生に対してインタビューを行い学校に求めることなどを把握していく予定にしている。</li> </ul>
VI	教育環境 ＜評点 3.3＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備については、2021年新校舎への移転に伴い整備されていく予定である。</li> <li>・学内外の実習は、施設の協力を得て老年看護学実習以外は、ほぼ例年通り行えた。学内インターンシップの体制はあるが今年度はコロナ禍により行えなかった。</li> </ul>
VII	学生の受け入れ 募集 ＜評点 3.3＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、外部に出向いて行うことは出来なかった。</li> <li>・学校説明会を動画配信したが、一方的な配信であったので反応が分かりにくかった。今後は双方向で交流する時間を取り入れるなど工夫をする必要がある。</li> <li>・入試方法を個人面接から集団面接に変更して2年目である。3月1日の一般Ⅱ期入試が終了後、評価していく。</li> </ul>
VIII	財務 ＜評点 4.0＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の財務は、予算収支計画とも問題ないと考える。</li> </ul>
IX	法令の遵守 ＜評点4.0＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護のために学生へのガイダンスを行い指導している。</li> <li>・専修学校の学校評価マニュアルをもとにした自己点検・自己評価を実施しホームページに公開している。</li> <li>・学生や保護者からの意見は十分聞く体制をとっている。学生や保護者から意見があった際は速やかに対応できている。</li> </ul>
X	社会貢献・ 地域貢献 ＜評点 2.0＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、社会・地域への貢献活動は行えなかった。</li> </ul>
XI	国際交流(必要 性に応じて) ＜評点 2.0＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、国際交流活動は行えなかった。</li> </ul>